



おはよう！はにかむコラム vol.9

親子で予防歯科

どうして親子で予防歯科？

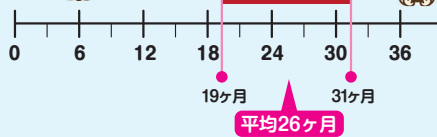
むし歯菌の代表格ミュータンス菌は赤ちゃんに歯が生え始めると、口の中に定着し始めます。このミュータンス菌がどこからやってくるかというと、保育者・母親であることが多いからと言われています（生後9か月から31か月の間が最も感染しやすい時期）。ということは、赤ちゃんのお口の中をしっかりと守っていくためには、保護者のお口の中も整えていくことが大切なんです。

乳歯が生え始め

乳歯が生えそろう

この時期が感染しやすい

感染の窓



妊娠中、出産後のお母さんのお口の中

妊娠中お母さんのお口の中は、つわりの影響やだ液の質や量の変化により、むし歯がでやすい環境になります。また、ホルモンのバランスの変化の影響で歯周病菌が増えやすくなります。出産後は生活リズムが崩れがちで睡眠不足になり

やすく、精神的にも体力的にも不安定で、ご自身のことが十分にできないかもしれません。このような環境の中で、お口の中が乱れてしまっている可能性があるため、落ち着いたら一度歯科を受診し、むし歯のチェック、歯周病のチェックをしてもらう必要があればむし歯の治療や歯の掃除をしてもらうといいでしょう。そして、その後も定期的に検診に通い、歯の掃除等を受けることで、お口の中を整えていきましょ。

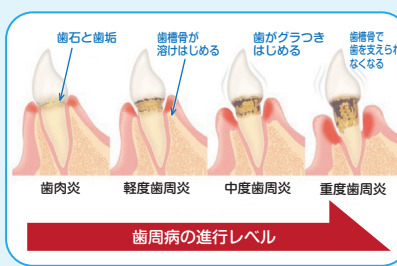
30代の80%が歯周病！

歯周病とは、歯を支える歯ぐきや骨が壊れていく病気です。歯ぐきからの出血に始まり、徐々に歯を支えている歯ぐきや骨がやせていき、進行すると歯がぐらつくようになります。

原因は細菌の塊であるプラーク（歯垢）で、歯周病の菌が産生する毒素で歯ぐきを腫らし、血や膿を出したり、歯の周りの骨を溶かしたりします。プラークは薬が効きにくい構造となっており、歯垢で取り除かないといけません。このプラークが固まったものを、歯石と呼びます。

歯石になると歯みがきでは取れませんが、歯石の周りのプラークや歯と歯茎の隙間に入り込んだプラークはご自分で取るのは難しく、また歯周病は

赤ちゃんはいつごろから歯医者へ？



サイレントティーンズ静かな病気と呼ばれ、初期段階では本人にあまり自覚症状がないので、気がついたときにはかなり進行している事が多いのです。ですから定期的に歯医者で検診を受け掃除することが大切です。

スムーズに治療しやすいです。歯が生え始めるころは、まだそれほどむし歯になりにくく、フッ素にしてもまだとついても塗らなければいけないことはありません。そういう頑張りなくてもいい時期に、歯医者に行くと慣れるということもいと思います。お母さんの検診の時についてくるという手もあります。

一般社団法人 四日市歯科医師会

〒510-0093 四日市市本町9番12号
☎059-354-8512

四日市歯科医師会 検索

今回お話ししてくれた先生



歯科衛生士 松岡陽子



RECRUIT GUIDE

もう一度、歯科業種に戻ってきませんか??みなさまがお仕事復帰できるようにお手伝いします。

歯科医師 歯科衛生士 歯科技工士
歯科助手 歯科受付 など

- ・何年も歯科業界から遠ざかっていてまた復帰できるか不安...
- ・長い期間離れていたのでは今さら勉強できるか不安...
- ・働く前にどんな医院が見てみたい... ご相談はお気軽にご連絡ください

